

花北青雲、学級数維持を

同窓会とPTA 県教委に要望

県教委の新たな県立高校再編計画を受け、県立花北青雲高校同窓会(藤原康洋会長)と同校PTA(堀田圭一会長)は24日、同校の現在の学級数を維持するよう県教委に要望した。

藤原、堀田両会長が県庁を訪れ、県教委の木村久高校改革課長に要望書を手渡した。

再編計画では同校のビジネス情報科について、2020年度に現在の2学級から1学級に減らす方針が示されている。



による再編案を出さざるを得ず、直近の状況を十分見極めた上で判断することになる」と述べた。

同窓会、PTAでは今後必要に応じて署名運動に取り組みことも検討する。

これに対し要望書では、若者の地元への定住促進に向けて「地元就職を希望する生徒が多く、学級減により門戸を狭め進路希望が高校受験前についえることにもなりかねない」と懸念を示すとともに、前回の高校再編時に新校舎を整備していることから「多額の公費を投じて整備された施設、整備は今後も有効に活用を」として学級数維持を求めている。

木村課長は「熱い思い、要望は重く受け止める。ブロック内での調整

花北青雲高の学級数維持を要望した藤原同窓会長(中央)と堀田PTA会長(左)